

滋賀・石田三宅遺跡

- 1 所在地 滋賀県守山市石田町・三宅町
- 2 調査期間 一九八七年（昭62）七月～一九八八年三月
- 3 発掘機関 滋賀県教育委員会・（財）滋賀県文化財保護協会
- 4 調査担当者 森 格也
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 古墳時代～平安時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



（京都東北部）

石田三宅遺跡は、琵琶湖の東南部、野洲川下流の沖積平野に位置している。このあたりは旧近江国野洲郡明見郷に属し、遺跡の南東

約二・五kmには東山道が通じている。遺跡は、野洲川の分流である天神川に接して立地しており、標高九〇m前後を測る。調査は、滋賀県住宅供給公社による宅地造成事業に伴うものであり、旧河道及び溝状遺構が検出されている。

木簡は、平安時代中期に埋没した自然流路跡と考えられる溝状遺構から出土した。当遺跡からは墨書土器も五点出土しており、判読できるものでは「錦□」「□之」がある。一〇世紀前半のものである。

8 木簡の釈文・内容

(1) ×付^{〔廣カ〕}□□

(7.3)×22×5 0659

「付」の後に続く二文字は人名を表すものと考えられる。木簡の年代は、伴出した須恵器甕から一〇世紀前半頃と推定される。

なお、木簡の釈読に際しては、奈良国立文化財研究所森公章氏・渡辺晃宏氏のご教示を得た。

9 関係文献

滋賀県教育委員会・（財）滋賀県文化財保護協会『石田三宅遺跡発掘調査報告書』Ⅰ、Ⅱ（一九八八、一九九一年）

（平井美典）

